

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 会報メール 第36号

[2011年11月号]

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第36号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

Mae Tao Clinic オリジナルTシャツ販売開始!	[2]
メソトマンスリー	[4]
新現地スタッフのブログ更新中!	[5]
国内から (稲岡 希実子)	
・ ラオス第二の世界遺産ワット・プー	[5]
国際保健医療協力のなかで (14)	(小林 潤) [7]
シンシア医師の本 発売中!	[8]
編集後記	[8]
次号の予定	[9]



Mae Tao Clinic オリジナルTシャツ販売開始！

ファンドレイジングの一環としてメータオクリニックではオリジナルグッズの販売を開始しました。

第一弾としてオリジナルTシャツが完成！

こちらはまだ販売開始して1カ月弱の新作です。
まだ持っている人が少ない？希少価値のあるTシャツ。
本来ですと、クリニックでしか手に入らないものなのですが、

今回、特別に！！

この会報が届いた日から、平成23年12月10日の20時までの期間限定で注文をお受けすることになりました。

売り上げは、全額、メータオクリニックに寄付されます。

デザイン



表：health as human rights



裏：Mae Tao Clinic

色：白と黒の2色

サイズ：S～XL。

価格：1枚 1,500円

家族、親戚、友達に…カップルで色違いもいいかも。もちろん自分用にも1枚いかがですか？

お申し込みはメールでのみとさせていただきます。
なお、注意事項をご確認の上、お申し込みください。

<お申し込み期間> ～12月10日(土)20時まで。

<ご購入までの流れ>

① Tシャツ購入希望のメールを日本事務局にお送りください。

日本事務局宛てEメール：support@japanmaetao.org

件名に「Tシャツ購入希望」とお書きください。

本文に下記の項目のご記入をお願いいたします。

1. お名前



2. 郵便番号、ご住所
3. メールアドレスなど申し込みの方と必ず連絡がとれるご連絡先
4. JAM会員の有無
5. ご希望の色、サイズ(サイズ表をご参照ください)

② 日本事務局から振り込み先などを記載したメールが届きます。

(万が一、メール送信から5日経っても連絡がなければお手数をおかけして申し訳ございませんが、再度メールをくださいますようお願いいたします。)

③ 日本事務局からのメールをご確認後、ご入金(ご購入金額+送料500円)をお願いいたします。

④ ご入金を確認でき次第、発送時期をお知らせいたします。

タイからの輸送調整中のため、年明け以降の発送となります。

【ご注意事項】

- ・発送方法は、日本郵政のレターパック500とさせていただきます。ご購入枚数が多い場合は、メールでのお申し込みの際にご相談ください。
- ・日本での在庫がない場合、タイからの輸送を待ってからの発送となりますのでお時間のかかる場合がございます。
- ・原則と致しまして、ご返品・交換はお受けいたしませんのでご了承願います。

サイズ表 (単位:cm)

	身幅	着丈	肩幅	袖丈
S	84	57	37	15
M	92	64	41	18
L	98	69	42	21
XL	115	76	51	24



着てみるとこんな感じ。
モデルの差がありますが…
シンプルでかわいいTシャツです。



メソトマンスリー

Hope school 新校舎完成！



【メソト＝前川 由佳】

Hope School は当会が支援している移民学校のひとつで、メソト市内から車で1時間、広大な農地が広がる地域の竹藪の中にあります。

今まで使用していた校舎は老朽化し、生徒たちはぐらつく柱で支えられた校舎で、穴のあいた屋根から滴る雨粒を避けながら勉強を続けていました。このような状況を受けて、この度、敷島製パン労働組合様からいただいたご寄付と JAM 会員の皆様からの寄付金により、校舎の改築をさせていただきました。

11月8日、ついに待ちに待った Hope School の新校舎が完成！

これを機に、学校と地域のつながりをより深めようと11月19日にはオープニングセレモニーが開催されました。Hope School の先生と生徒、両親、地域の方々、学校関係者、さらには周囲の移民学校からも生徒が訪れ、賑やかなセレモニーとなりました。農村部にあるこの学校にこれほどの人が集まっているのを見たのは初めてで、生徒たちもいつもと違った賑やかさになんだかさわさわ…普

段は農作業で忙しい両親が見に来てくれていることもあって、いっぱいのおめかしをして、一生懸命に歌やダンスを披露してくれました。

長年この地域の移民学校に携わっている関係者は、「Hope School の“Hope”その意味は“希望”です。希望は決して消えないもの。どのような状況下でも、学校の名の通り希望を抱き続け、勉強に励んでほしい。」と語ります。

その言葉に耳を傾ける生徒、先生、両親たち。新校舎が完成したことで生徒たちの学習環境が整っただけでなく、その名前自体から改めて学校の意義を考えさせられる機会となりました。

まだまだ課題の残る Hope School の現状ですが、この日はどの先生も、どの生徒も新校舎が出来て嬉しいと、最高の笑顔を見せてくれました。笑顔の数だけ希望がある。この先、このピッカピカの校舎にはどれほど多くの Hope が詰まっていくのでしょうか。



左上写真：改築前の校舎



右上写真：新校舎と希望でいっぱいの生徒たち。

きょうのゆめ



今月の主役はアウントゥーヤミン君、10歳。
Hope Schoolに通っている小学2年生です。
ビルマのナウンタウンという村から来ました。
新しい校舎が出来て嬉しいと笑顔いっぱい話してくれたアウントゥーヤミン君。

将来の夢は、車の会社の社長さんになること！そのために大学を卒業して、車の整備士になって…と、とても具体的な人生設計を話してくれました。

心なしか10歳にしては落ち着いた雰囲気のアウントゥーヤミン君。
やはり社長さんになる人は、違った何かを持っている？！

新現地スタッフのブログ更新中！

現在、現地スタッフとして赴任した看護師、前川由佳のブログです。

人、想い、メータオへ。

<http://omoimaetao.blog.fc2.com/>

現地の様子や現地での彼女の生活っぷりなど、不定期に更新の予定です。

ぜひ、ごらんください。

国内から

ラオス第二の世界遺産ワット・プー

【東京＝稲岡 希実子】

1. ワット・プーの概要

ワット・プーは、ラオス第2の世界遺産として2001年12月、ユネスコに登録されたヒンドゥー教寺院跡、クメールの遺跡です。クメールの遺跡というとカンボジアにあるアンコール遺跡群が有名ですが、アンコール王朝の時代に現在のラオス南部一帯はクメール王国の領土だった為、クメールの遺跡が存在します。

ワット・プーは、ラオス語で山の寺を意味し、その名の通りラオス南部チャンパサック県カオ



山の麓に建設されています。



写真1 下のテラス、宮殿までの参道

2. 下のテラス、中のテラス、上のテラス

クメールの寺院には平地に立地するものと、斜面を利用して立地するものがありますが、ワット・プーは斜面に立地するタイプの典型例です。下のテラス、中のテラス、上のテラスと平坦地が三段あり、それぞれ建物もしくは構築物があります。カオ山の麓が下のテラスで、東に睡蓮の花咲く2つの大きな貯水池があり、その2つの貯水池の間を通り過ぎると左に南宮殿（別名、女の宮殿）、右に北宮殿（別名、男の宮殿）が見えます。



写真2 北宮殿(別名、男の宮殿)

下のテラスから急な階段を昇ると、途中に門跡があり、更に階段を昇り進むと中のテラス、上のテラスへと続きます。下のテラスから上のテラスまでをつなぐこの階段。ふと見上げれば、ラオスの国家ブルメリアン（チャンパー）の木々が階段の両側から生い茂り、包むようにアーチを描いています。緑のトンネルの中は、優しい風が通り、とても心地よいのです。チャンパーの花が咲く時期は、この風が甘い香りを運び、本殿まで誘ってくれるそうです。



写真3 本殿までつづく急な階段

足場の小さな階段を注意深く昇ること約40分。そこには木々に囲まれた本殿が見えます。苔の生えた本殿は、正面から見るよりも少し離れたところから、その横顔を見るのをお勧めします。自然と本殿と一緒に生活している調和の取れた風景は、とても美しく、時間のゆるす限り眺めていたくなるのです。



写真4 本殿の横顔

3. おわりに

広大な敷地の全てがヒンドゥー教一色でした。参道にいくつも点在したコブラの石碑から、ゴールでは大きなシヴァ神の像を拝見出来るとばかり思っていました。そこには仏像が安置されていたのです。世界の破壊をつかさどる神の家に、真理に目覚めた仏の像が暮らす場所。それが、私が初めて出会ったワット・プーでした。

国際保健医療協力のなかで (14)

【東京＝小林潤】



なぜ支援するのか？というシンプルな疑問について改めて考えさせられたとともに、自分の哲学が整理できた。

タイ・バンコクで大洪水が起きている。

先週、バンコクを訪問する以前には「タイだから大丈夫だろう」と楽観視していたし、支援を考えもしなかった。

タイは開発途上国から中進国へと発展しつつあり、多くの国際機関も援助対象国として見なくなっている。事実、タイは Thailand International Development Cooperation Agency という援助機関を設立し、途上国への支援を始めている。地球規模で考えれば、「リバタリアン」の発想によって、より貧困、困っているところに支援すべきであると考えるのでバンコクへの支援は必要がないかもしれない。

しかしながら、実際に現地を訪問してみると、違う思考が動いていた。お世話になっていた／る人が困っている、もしくは大変なこ

とになっているので、何とかしたいという考え方である。これは「コミュニタリアン」の考え方で、同じ Community であるから支援するという考え方の発展系であるときずいた。

グローバル化という言葉はよく聞く言葉なのだが、今回はこれを実感させられた。ようするに私にとって、タイの人たちはすでに近隣の友人であり、同じ Community になっていたのである。さらに、嬉しいことにこの感覚を持っている日本人は、少なからず多かった。お世話になったマヒドン大学熱帯医学部の活動を支援することになったのだが、同じ気持ちを持つ仲間が集まり、マヒドン大学日本人同窓会はあっという間に結成されるにいたった。この結果として少なからずも寄付が集まることにもなったのである。

「友達」がいるから行く。「友達」が困ったら役に立つかわからないけれど、手を差し伸べてみる。こういうことに、自立発展性や継続性といった国際開発に用いられる概念では説明できない。

東日本大震災に多くの外国からも支援が



よせられた。国際協力を始めた20年前と比較したら、国として、団体として、個人として、日本と国境を越えてはるかに多くの糸が

つながっている。「素晴らしいことだ」と改めて思った。

シンシア医師の本 発売中！

『タイ・ビルマ 国境の難民診療所—
女医シンシア・マウンの物語』

(新泉社、1800円)

全国の書店、またはアマゾン等で発売中です！！

当会が編集協力した『タイ・ビルマ国境の難民診療所—女医シンシア・マウンの物語』
(新泉社、定価1800円)が発売中です。

本書は、当会の支援先であるメータオ・クリニックとその創始者シンシア・マウン医師に焦点をあてたものです。

当会は、さまざまな現地情報の提供、スタッフの梶藍子看護師による体験記の収録等で協力しました。

本書の印税は、当会を通してクリニックへ全額寄付されます。

編集後記

世の中には、冬になると牡蠣小屋というものがあらわれると初めて知ったのでさっそく行ってきました。

そう、わたしは、牡蠣が大好きなのです。

ちなみにラーメンと牛タンとアイスクリームも好きです。

さて、今回、私が行ったのは、福岡の糸島というところらへん。ネットで「牡蠣小屋」と検索すると出てきます。

わたしのびびりな運転で博多駅から、車で1時間ちょっと。

いちご栽培とかに使うようなあのビニルハウスがお店になっているのです。

そしてそのビニルハウスがいくつも並んでいるのです。



